

# 平成20年度 研究の取り組みについて

平成20年4月16日

京都市立美豆小学校

## 1 学校教育目標

＜豊かな人権感覚を育み、個が生きる進路の実現を目指して＞

**心身ともにたくましく、学ぶ楽しさがわかる子**

## 2 目指す子ども像

- |          |                             |           |
|----------|-----------------------------|-----------|
| <b>み</b> | みんなと力を合わせ、めあてをもって生き生きと取り組む子 | 「学力向上」    |
| <b>ず</b> | ずばぬけたやさしさで、友達を大切にする子        | 「社会性の育成」  |
| <b>の</b> | のびのびと活動する心豊かな子              | 「心の教育」    |
| <b>こ</b> | こころとからだをたくましくきたえる子          | 「自主自立の精神」 |

## 3 このような子どもを育てるために・・・

研究主題は

**伝え合いを通して、いきいきと学ぶ子**

～国語科を中心とした情報活用能力の育成～

## 4 主題設定の理由

国語科において思考力・判断力・行動力といった資質を身に付け、自分のおもいや考えを相手に伝えるコミュニケーション能力を向上させる実践的な研究を始めて4年になる。昨年度は「話すこと・聞くこと」の領域における基礎・基本の指導事項に視点を当てながら「読むこと」「書くこと」をも視野に入れた取組を進めてきた。しかし、自らすすんで課題を見付けたり自分の方法で課題を解決したり、自分の思いや考えを自分の言葉で表現したりする力はまだ十分とはいえない。特に文章表現については弱さが目立つ。

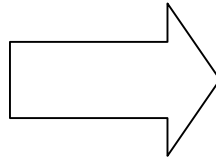
このような実態をふまえ、19年度からの情報教育化の研究を継続しながら国語科において「書くこと」に重点を置いた授業実践、及びICT機器有効に使った授業実践の研究をすすめていきたい。

また、情報機器の活用を通して子ども達の関心・意欲を高めたり、問題意識をしっかりとらせたりして、いきいきとした学びができる子を育てることにつなげていきたい。ICT機器の活用を積極的に薦め、児童の学力向上を多くの教科で実現させていきたい。

## 研究仮説

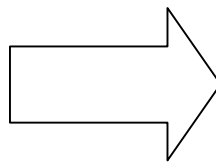
## 具体的な取り組み

①人間関係があたたかいものになると、子どもは心を開き豊かな感性が磨かれるだろう。



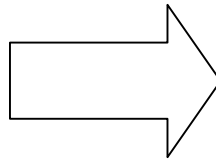
あたたかい学級づくり  
地域との交流  
児童会活動  
(なかよしグループ活動)

②驚きや、疑問、楽しさを感じた子どもたちは意欲を持っていきいきと学習に向かおうとするだろう。



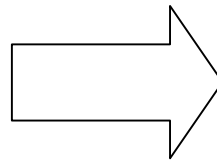
I C T機器による導入  
体験・経験  
教材提示の工夫  
読書

③声を出すコミュニケーションを取ること  
で自信が高まり、また、言葉の力に磨きがかかるだろう。



スピーチ  
音読  
意見発表  
詩の朗読  
伝え合う場の設定  
校歌

④感動したことや新しいことを知った子どもたちは、人に伝えたくていきいきとした文を書きだそう。



行事の後に感想文  
聞き取りメモの活用  
調べ学習の発表  
学習の後に自己評価  
あのねノート  
日記  
読書

6 学年部テーマ  
つばさテーマ

自分の思いや伝えたいことを表現できる子

低学年部テーマ

ことばを大切にしておもいや考えを自分の言葉で表現する子

- 1年・・・読んだり書いたりする活動を通して自分のことばで表現できる子
- 2年・・・読んだり書いたりする活動を通して自分の思いをいきいきと表現できる子

中学年部テーマ

相手や目的に応じて自分の考えやおもいを豊かに表現する子

- 3年・・・相手や目的に応じて、調べたことなどが伝わるように段落相互の関係を工夫して文章を書き、適切に表現しようとする子
- 4年・・・段落の相互関係を意識しながら、伝える相手や目的に応じて表現する子

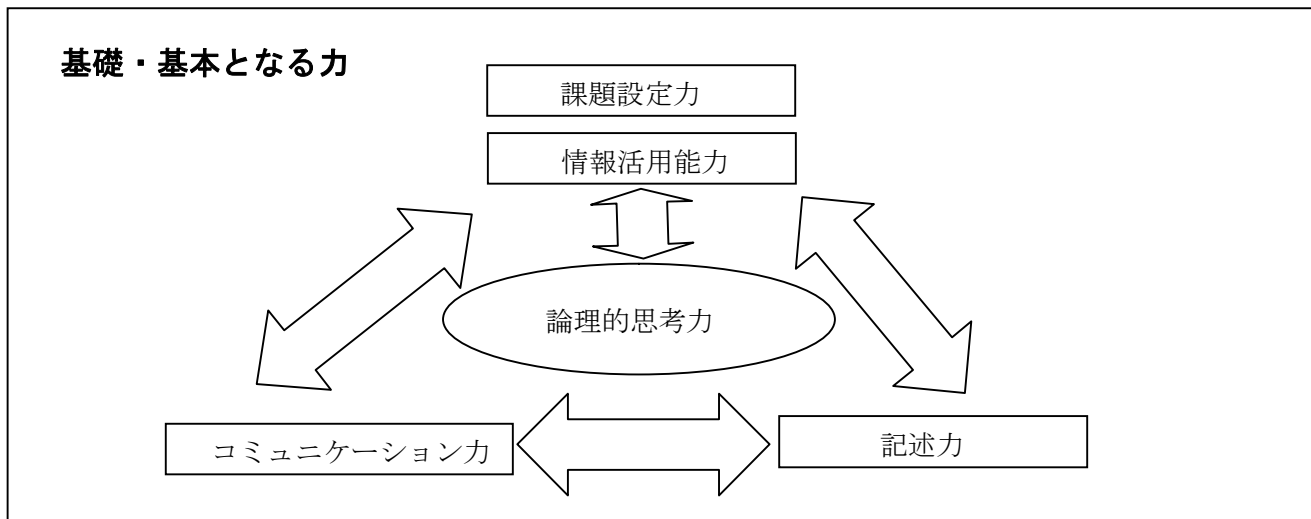
高学年部テーマ

自分のおもいや考えを目的に応じた表現で効果的に伝える子

- 5年・・・自分の思いや考えを工夫して、適切に表現できる子
- 6年・・・文章の構成を考えて効果的に表現できる子

7 研究の重点

(1) 基礎・基本の力を培う授業づくり



## (2) 情報活用能力を育てるための取組

情報活用能力とは次のような力であると捉え、国語科を中心に教科の枠を広げ情報活用能力を育てていきたい。

### ① 情報活用の実践力

課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し受けての状況などを踏まえて発信・伝達できる能力

### ② 情報の科学的な理解

情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と情報を適切に扱ったり、自ら情報活用を評価・改善したりするための基礎的な理論や方法の理解

### ③ 情報社会に参画する態度

社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

教科学習にはそれぞれの目標があり、その教科で育てるべき能力や態度、必要な知識を身に付けるために系統的に学習内容が編成されている。その内容には情報活用能力の育成にかかわる内容がたくさんある。各教科で情報教育とかかわる単元を決め年間指導計画を立てて系統的に指導していきたい。また、総合的な学習と各教科も連動させながら情報活用の実践力を高めていきたい。

## (3) 伝え合う力を育てるための取組

伝え合いの場においては、相手の表現を注意して受取り、正しく理解する力が必要である。また、お互いのよさを見出し、認め合い励ましあいながらともに伸びていこうとする心の通った暖かい人間家計作りがその基礎となる。そこで、次のような取組を通して伝え合う力の育成を図りたい。

### ① 思いや考えを深める価値ある話題と課題意識

児童一人ひとりが言いたくてたまらない、書きたくてたまらないという思いをもてるようにするには価値ある話題が用意されなくてはならない。そのためには、児童一人ひとりが課題を持って文章の主題・要旨の方向に追求し、表現「書く・話す」へと方向付けられることが大切である。

### ② 相手を尊重する聞き手の育成

伝え合いには、まず聞き手の育成が重要である。そのために「聴く」(内容を聞き取る)を意識し相手の考えを尊重して聞く、目的をもって聞く、自分と結びつけて聞くなどの態度を身に付けさせていきたい。

### ③ 話し手に対する応答のあり方

応答のあり方としては、相槌・受容・促し・尋ねる・驚き・共感・意見・認めるなど多種多様である。発達段階に応じて取り入れていきたい。また、伝え合いが言葉を通しての豊かな心の交流となるため、聞き手と共に表情や動作や視線を加えて情感も伝えるようにしたい。

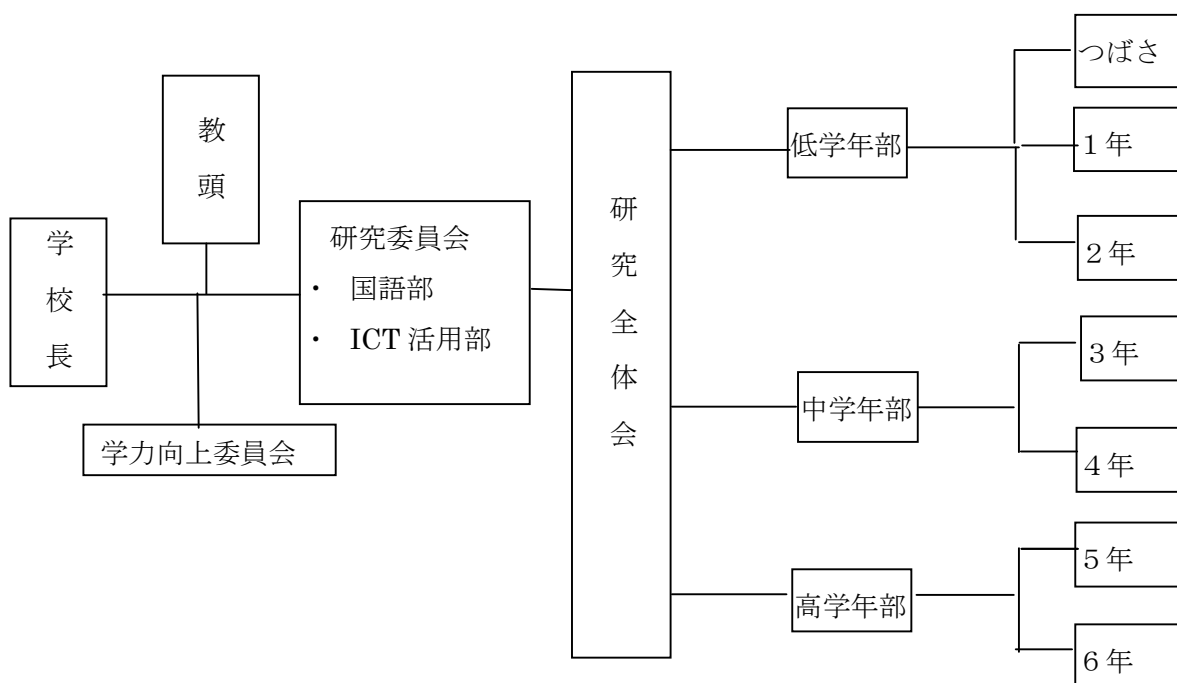
### ④ 効果的に伝え合うための方法の選択

効果的な伝え合いには学習内容にあった適切な表現方法を選ぶことが大切である。また、相手意識や目的意識をはっきりさせて相手にわかりやすく伝えるための効果的な資料の活用や適切な声の大きさ、間の取り方、表情、動作などについても意識することが大切である。形態としては学級・学年にとどまらず、異学年や幼稚園、保護者、地域の方との交流など対象の枠を広げていきたい。

#### (4) 日常の取組

- ① 書く機会を多く設ける  
朝会のあと 行事のあと 交流のあとなど感想を書く
- ② 言語を中心とした教育環境整備  
今月の詩の掲示, 図書室, 学級文庫の充実, 日記指導, 学級通信に作文掲載, 基本話型の掲示
- ③ 読書指導の推進  
おはよう読書, 図書室の学級割当て時間の活用, 読書ノート
- ④ ネットワークの有効活用  
校内LANを活用して学級間や他学年との交流

### 8 研究組織



## 9 年間計画

月/日	国語科研究		情報教育化
4/9 4/16	校内研究会（全体） 部会	テーマ，学年取組について 研究単元教材決定	
5/29	校内授業研究会（全体）①5年生		
6/19	校内授業研究会（全体）②つばさ		
7/4	校内授業研究会（全体）③2年生3組		
8/6 21	夏季研修 合同研修会 研究研修会	国語科指導講座参加 研究委員会（美豆・明親・大淀） 理論研修 漢字淀検定問題作成	
9/11	校内授業研究会（全体）④4年生2組		
10/23	校内授業研究会（全体）⑤1年生2組		
11/20	校内授業研究会（全体）⑥6年生2組		
12/9	支部統一授業研究発表会 本校研究発表 つばさ学級 1年1組 2年1組 3年1組 4年1組 5年1組 6年1組		プロジェクター
1/29	校内授業研究会（全体）⑦3年生2組		
2/	学力実態調査実施	20年度の成果と課題まとめ	
3/13	校内研究会（全体）	来年度の方針	

## 20年度 重点教材

学年	単元〈教材名〉	
	前期	後期
つばさ	伝えよう 〈喫茶つばさ 準備中〉ジュースやさんごっこ	伝えよう 〈喫茶つばさ オープン〉
1年	こえにだしてよもう 〈くじらぐも〉	ちがいをかんがえてよもう 〈どうぶつの赤ちゃん〉
2年	ほんともだちになろう 〈スイミー〉	たしかめながらよもう 〈一本の木〉
3年	まとまりに気をつけて読もう 〈ありの行列〉	大事なことをたしかめよう 〈すがたをかえる大豆・食べ物はかせになろう〉 学習したことを生かして 〈モチモチの木〉
4年	場面をくらべて読もう 〈一つの花〉	調べたことをしらせよう 〈せいかつを見つめて、表やグラフにまとめる〉
5年	調べたことを整理して書こう 〈言葉の研究レポート〉	目的に応じて伝え方を考えよう 〈ニュース番組作りの現場から〉
6年	相手や目的に合わせて書こう 〈ガイドブックを作ろう〉	筆者の考えを受け止め自分の考えを伝えよう 〈平和のとりでを築く〉